



今回のターゲットは  
ツインテ娘5人組!

もちろん片っ端から

中出しラッシュ!!!

ついでっ!

「よし、それじゃあ自分で挿入てごらん」

「ほ、はいマスター…」

「マスターの命令は絶対…わ、私がマスターを気持ちよくしなきゃ…」

「んっ…んうっ…ふあっ！」

「おおっ、これはっ！」

「いつ…いかがですかっ…マスター！」

「さ、最高だっ、この調子で続けてくれっ」

「は…はっ！」



「あっ、はっつ、あああ！  
どっ、どうですか・マスターっ」

「ああっ、いいぞっ  
さすがは俺のニンフだっ」

「マ、マスターが褒めてくれたっ  
う・嬉しいっ、も、もっと  
マスターを気持ちよくしたいっ」

「マ、マスターのおちんぼ  
かっ、固くて、ぶっどくて  
気持ちいいれすうっ！」

「なっ、ど、どこでそんな  
エロイ言葉覚えてきやがった  
この淫乱めっ、いいぞもっどやれ！」

「はっ、恥ずかしくて死にそうっ！  
でもマスターが喜んでくれたっ  
そっ、それならもっど・っ！」

「は、はいっ、ニンフは淫乱でっ  
え、エロイことばかり考えてるんですっ  
だ、だからマスターの極太ちんぼでっ  
ニンフのスケペマンコに  
お仕置きして下さいっ！」







「お、お掃除って…コレを…  
ですか?…」

「当然だつ…まさか俺の  
チンポとザーメンを  
口に入れるのが嫌なのか?」

「そつ、そんなことはつ…  
お、お掃除…しまひゅ…えろおつ」

「うむつ、よろしい。  
それでこそ俺のニップだ」

「ううつ、な、生臭くて…苦くて…  
きつ、気持ち悪い…っ  
で…でも…命令だから…  
き、綺麗に…舐めとらなきや…っ  
「べちゅつ、れろお…んっ…んくっ…  
んあつ…じゅるっ…えあつ」

「あ…あの…お、おちんぼ掃除…  
終わり…ました」

「いや、まだカリのこの  
チンカスも、尿道に残ってる  
ザーメンも残ってるじゃないか  
全然ダメだぞ」

「え？あ、あの…」

「しょうがない、手伝ってやるうっ」

バクバク

バクバク

「て、手伝うって…んぶううっ！  
うえっんっ、うぶっ、んんっううっ！」  
（くっ、苦しっ…いつ、息がっ…  
味も…チンカスと精液が混じって…  
は、吐いちゃいそう…っ）

「いぞっ、その調子だニんぷっ」

「じゅぶっ、んじゅっ、むううっ！  
ふあ、ふあい、ますたー…んぶうっ！」





「はあっ、はあっ…さすがに  
またごんなに打ちまうとは  
思わなかった  
わ、悪かったなニン…」

「んっ、んっ、んくっ、ごきゅっ…  
ま、また…おちんぼ掃除…しまひゅ…  
ちゅぱ、ちゅぱ…ちう、ちう…」

「うおおっ、いいや、でもっ」

「ますたーのおちんぼミルク…  
おいひくて…んちゅうううう  
全部…飲みたいんれひゅ…」

「そ、そうか…そ、そういうことなら…」

(ど、どうしちゃったんだ、コイツ)

じゅん  
じゅん  
じゅん

「じゅるっ、じゅるるるっ…  
あ…ありがとう…いまいひゅ…  
ん、んちゅうう、ちううううう」

(臭くて、苦いけど…マスターの  
おちんぼ汁舐めると…  
おまんこがきゅんきゅんして…  
き、気持ちいいよお…っ  
わ、私…本当の変態さんに  
なっっちゃった…)

んん

んん

んん

んん

「それじゃ、そろそろ  
フェイトちゃんマンコを  
いただきますかねえ」

「ひっ、や、やめて…  
な…なんでこんな…」

「なんでって…こんな  
エロイ格好してウロウロ  
してる君が悪いだよおつと」

「やあ、いつ、痛っ  
や、やだっ！そ、そんなのっ  
入らないっ！」

「大丈夫大丈夫、確かに  
ギツチギツチだけど  
ネジ込めない程じゃないからっ」

「そ、そんなっ、ひぐっ！  
ほ、ホントに入ってる  
ああああっ！」



ああ

あ

ひ

あ

めり  
めり

あ



「よがってるトコで  
悪いけど、そろそろ  
イキそうなんだよねっ」

「いっイクって...」

「フェイトちゃんの  
子宮の中に、俺の  
ザーメンぶちまける  
ってことっ!」

「...え...や...やあつ!  
やだっ!やめっ...!!  
それだけはやめてっ!」

あああああ  
あああああ  
あああああ  
あああああ

「えんなっ!待って!だめっ!  
膣内はっ...あつ...あああ...う  
ひっ...あああああ...あつ!」

「もう遅いっ...ぐわ、イクっ!」

「今、ドクドクって...熱いのが...!  
私、出されてるっ...膣内に精液っ  
注ぎ込まれてるっ!」



「ふうっ。。  
おおっ、我ながらすげえ量の  
ザーメンだなこりや  
なあフェイトちゃん」

「。。あ。。うあ。。ああ。。」

「ありや、こりや聞こえてねえな  
さつきからマンコひくひく痙攣してるし、  
膣内出しされてイっちまったつてコトか  
レイプされていくなんて随分な  
性癖だねえフェイトちゃん」

「お。。お腹。。熱。。  
せ。。精液。。出されて。。  
に。。妊娠。。しちや。。」

「人の話を聞けっつーの  
孕んだら堕ろせばいいだけでしょうが  
ったく、まあいいや、そんなじゃ俺は  
帰るわ、またねーフェイトちゃんっ」

かたむ





「はあっ、はあっ！  
あ、あずにゃんのオマンコ  
た、たまんないよっ！」

「んっ、んむっ、むううっ！」

「あずにゃんのオマンコが  
ぐちゅぐちゅ言っで……  
あずにゃんも感じてるんだねっ」

（なっ、違っ、そんなわけっ！）

「こんなにオマンコ汁出して  
喜んでくれるなんて……  
もっと激しくして気持ちよく  
してあげるね、あずにゃんっ」

「んうっ！んむううっ！」

（そっ、そんなに  
掻き回さないでっ！  
お、オマンコっ  
壊れちゃう……  
おかしくなっちゃうううっ！）

んむんむんむん

んむんむん

んむんむん





「はあっ、はあっ。い、いっぱい出たあ…  
すっごい気持ち良かったよおあずにゃん  
っとお、そろそろカムテープ外してあげるね」

「あ…あ…うあ…」

「あああ、こんな  
オマシコからチンポ汁  
お漏らししてえ、そんなんじや  
ちやんと妊娠出来ないよ？」

「あ…な…何…言って…」

「この人、私を…  
妊娠…させる気…なんだ…  
…だ、誰か…た、助け…」

「今日はもう帰るけど  
妊娠してなかったら  
また膈内にいっぱい  
出しに来るからねっ  
それじゃ、またね  
あずにゃんっ♪」

「そ…そんな…  
わ…私…あの人の…  
赤ちゃん…産まなきや…  
いけないの…？…や…  
いや…そんなの…っ」









「ふうっ…  
いやあゴメンねかがみちちゃん  
あんまりいい具合だったから  
我慢出来なくなっちゃったさあ」

「あ…あ…あ…これじゃ…  
あ…赤ちゃん…出来ちゃ…」

「まあまあ、膣内出ししちゃった  
お詫びに多目にお金置いとくからさ  
孕んじやつたらそれで墮ろせばいいよ♪  
そんじや俺はこれで。ばいばい」

うん

は

あ

あま

うん

うん

うん





「ふうふううう、いやあ気持ち良かったよ凛ちゃん  
さあっ、ザーメン全部飲めたかなあ、あーんしてごらん」

「…あ…うあ…うう…うええっ」

「こんなに震えちゃって、びっくりさせちゃったかな？  
ゴメンねえ…って、ありや、凛ちゃん全部飲めてないじゃん」

ぎゅる

「あ…あんなの…  
ぜ…全部…なんて…  
飲め…ないよお…」

ぎゅる

「あんなのってヒドイなあ…こんな悪い子にはお仕置きが必要だね」

「…え…お、おちんちん舐めたら…  
か…帰して…くれるって…」

「お仕置きが終わったらね♪」

「ぞ…そんな…ひ…ひどい…と…とーさま…助けて…」

うへええ

うへええ

うへええ

あ



「お父さんは来ないよお、この場所知ってるのは俺だけだからねえ、それじゃ、お仕置き開始っ」と

「やっ、やああっ、いつ、痛いつ！な、何！？何してるのおっ！？」

「何って。凜ちゃんのオマンコをオジサンのチンポをネジ込んでるんだよ？」

「やっ、やだっやだっ、やああっ！そんな大きいのっ、入らないよおっ！」

あ  
あ  
あ

ズ  
プ  
ニ  
ッ

ズ  
ズ

「へーき、へーきっ  
おとおお、さすが  
本物のロリマンっ  
きついなんて次元じゃ  
ないねこりやっ！」

「ひっ、ぎいっ！いつ、うああっ！  
ひああああっ！さ、裂けちやうっ！  
凜のオマンコっ、裂けちやうよおっ！」

「はあっ、はあっ！いいよおっ、凪ちゃんっ！  
凪ちゃんのロリマンコっ、たまんないよっ！」

「あっ、あひっ！やつ、やああっ！  
おっ、お腹っ、突かないでっ、くっ、苦しっ、あああっ！」

「でもっ、凪ちゃんのオマンコは喜んでるよっ  
ほらっ、じゅぶじゅぶって音、聞こえるでしょっ？  
これはオマンコが気持ち良くなってる証拠なんだよっ」

「凪っ、気持ち良くなんかつ、ひうっ！  
なっ、ないもんっ！」

あっ

あっ

あっ

やあっ

「それじゃあ、もっともっど  
突いて、凪ちゃんを気持ち良く  
してあげるねっ」

「ひぎいっ！あっ、うああっ！  
や、やだあっ、もうやだああっ！  
とーさまっ、助けてとーさまあっ！」





「さ、それじゃ早速しゃぶってもらおうかな」

「あ、あの、これを舐めれば、ホントに帰してもらえるんですか……？」

「ああ、そりや勿論だよ、約束してあげる」

「お、わかりました。それじゃ……な、舐めます」

「ん……んう……れる……れるおつ……んちゅ……ちゅびつ」  
「うええっ……この人のおちんちん……すごい匂い……  
生臭くて、気持ち悪いよおつ……」

「おおおつ、凜ちゃんがちゅちゅいお口で  
俺のチンポを、へろへろと……」

